異國商船往昔皆入筑前博多所謂花旭塔也二百有餘年以來或周防或豐後之豐府或薩摩或肥前平戸也自寛永年中一以肥前長崎爲湊而後不改

〔筑前國續風土記三博多〕一博多　天文廿一年より博多に大明西蕃の諸國より商船の來る事やみぬ其後は博多に異國の船絶て來らず此時より袖の湊も漸埋りつらん天文廿一年より今元祿十四年迄は凡百五十年に成ぬ其後に大友義鎮威力を振ひし時豐後府内に異國船を著せたり又其後紅夷の船は肥前の平戸に著長崎に大明諸夷の船の來るは又其後なり

〔筑前國續風土記二十一志摩郡〕引津　津の字すむべし

引津は芥屋村より六七町西南に當り芥屋と岐志との間に在し入海なり むかしはこの入海に芥屋岐志兩方より潮相通じて大船も内海に入しといひ傳ふいつの時よりか入海はあせて みな田となり今は田地凡五六十町も有とかや〇中略この田地むかし入海なりしゆゑに今も田の底をほれば貝のから出づと云〇中略かやうに四方に陸地めぐりてその中に入海ある所は諸州に希なる奇境なり引津と名附けしは岐志芥屋兩方に潮引し故にや また船入て潮干ぬれば外海へ出がたかりしを船を引出したるゆゑに名づけしにや

〔萬葉集七雜歌〕旋頭歌

梓弓引津邊在莫謂花及採不相有目八方勿謂花

〔萬葉集略解七〕引津は筑前也卷十五引津亭舶泊之作とあれば海邊なる事をるし

〔萬葉集十春相聞〕問答

梓弓引津野邊有莫告藻之花咲及二不會君毛

〔萬葉集十五古挽歌〕引津亭舶泊之作歌七首〇五首略

久左麻久良多婢乎久流之美故非乎禮婆可也能山邊爾草乎思香奈久毛